

令和元年 8 月 23 日
日本原子力発電株式会社

敦賀発電所 2 号炉

「敷地の地形、地質・地質構造について」に関する審査資料の記載の不備について

1. 概要

敦賀発電所 2 号炉 新規規制基準適合性審査において、平成 30 年 11 月 30 日の審査会合（第 657 回）で説明した資料（参考資料 1：連続性評価の具体的プロセス）の破砕帯データの一部に、記載の不備が判明した。

記載の不備は、「敷地の地形、地質・地質構造について」の次回審査に向けた資料の整理の中で、当社社員によって発見したものである。

このため、これまでに提出した審査資料の再レビューを行うとともに、原因を調査し、その結果に基づき、再発防止対策を実施した。

今回判明した記載の不備は、評価結果を導く（敷地内の破砕帯分布図を作成する）ための作業プロセスについて解説したものが殆どであり、申請書の評価結果（破砕帯分布図等）に影響を与えるものではないと考えている。（添付資料 1 を参照下さい）

2. 記載の不備に至った経緯

審査資料は、破砕帯データの出典元である「細分化カタログ」（データ集）のデータを引用して作成している。「細分化カタログ」は、多量の画像データ等が含まれることから、参考資料 1 の連続性評価の具体的プロセス等は、ファイル分割し、データ量を低減し、扱いやすくしている。

本件については当社社員が、分割された「最新版ファイル」を印刷すべきところ、資料の一部について、修正途中の「旧版ファイル」を誤って印刷したため、審査資料の記載の不備に至ったものであることが判明した。（添付資料 2 を参照下さい）

なお、分割して作成した審査資料については、社内規定「官庁定期報告書作成及び官庁対応業務要項」に基づき、データチェックを実施した上で、印刷時に一体化させていた。

3. 再レビューの結果

（1）全数照合確認の実施

これまでの審査資料に記載された破砕帯データについて、当該データの出典元（細分化カタログ）との全数照合等の確認を実施した。この確認は委託先と当社が実施した。

（2）確認結果

「敷地の地形、地質・地質構造について」の審査会合において使用した資料の「記載の不備」の頁数を次に示す。

（「記載の不備」の例は添付資料 3 を参照下さい）

審査資料の再レビュー結果

確 認 対 象		記載の不備の頁数
平成 29 年 12 月 22 日 第 536 回審査会合資料	本編資料	全 262 頁中 3 頁
	参考資料 (1/3)	全 524 頁中 39 頁
	参考資料 (2/3) 性状一覧表	— (*)
	参考資料 (3/3) ボーリング柱状図・コア写真	— (*)
平成 30 年 7 月 6 日 第 597 回審査会合資料	本編資料 コメント回答	無し
平成 30 年 11 月 30 日 第 657 回審査会合資料	本編資料 コメント回答	全 136 頁中 7 頁
	参考資料 1 連続性評価の具体的プロセス	全 754 頁中 159 頁
	参考資料 2 性状一覧表	全 196 頁中 25 頁(*)
	参考資料 3 ボーリング柱状図・コア写真	全 900 頁中 15 頁(*)

* 第 657 回審査会合資料 参考資料 2 及び 3 は、第 536 回審査会合資料の参考資料(2/3)及び(3/3)をそれぞれ更新（データを追加）したものであるため、更新後の第 657 回について再レビューを実施した。

4. 原因

- (1) 当社と委託先は、審査資料の更新（チェックと修正）を繰り返し実施していたが、分割された「最新版ファイル」の管理を確実にするためのルールメイキングが成されていなかった。具体的には、分割された「最新版ファイル」が、修正作業日毎の複数フォルダに保存され、当社社員は、どのファイルが最新版であるか把握し難い状態であった。
- (2) 審査資料作成当時（平成 30 年 10 月頃）、審査資料として「印刷した紙面」が「最新版ファイル」であることを確認するルールが無かったため、当社社員は、最新版と思い印刷した紙面のデータチェックを実施せず、資料の体裁と落丁のチェックのみ実施していた。従って、「印刷した紙面」が「最新版ファイル」ではないこと（「旧版ファイル」であること）に気付くことが出来なかった。

5. 対策

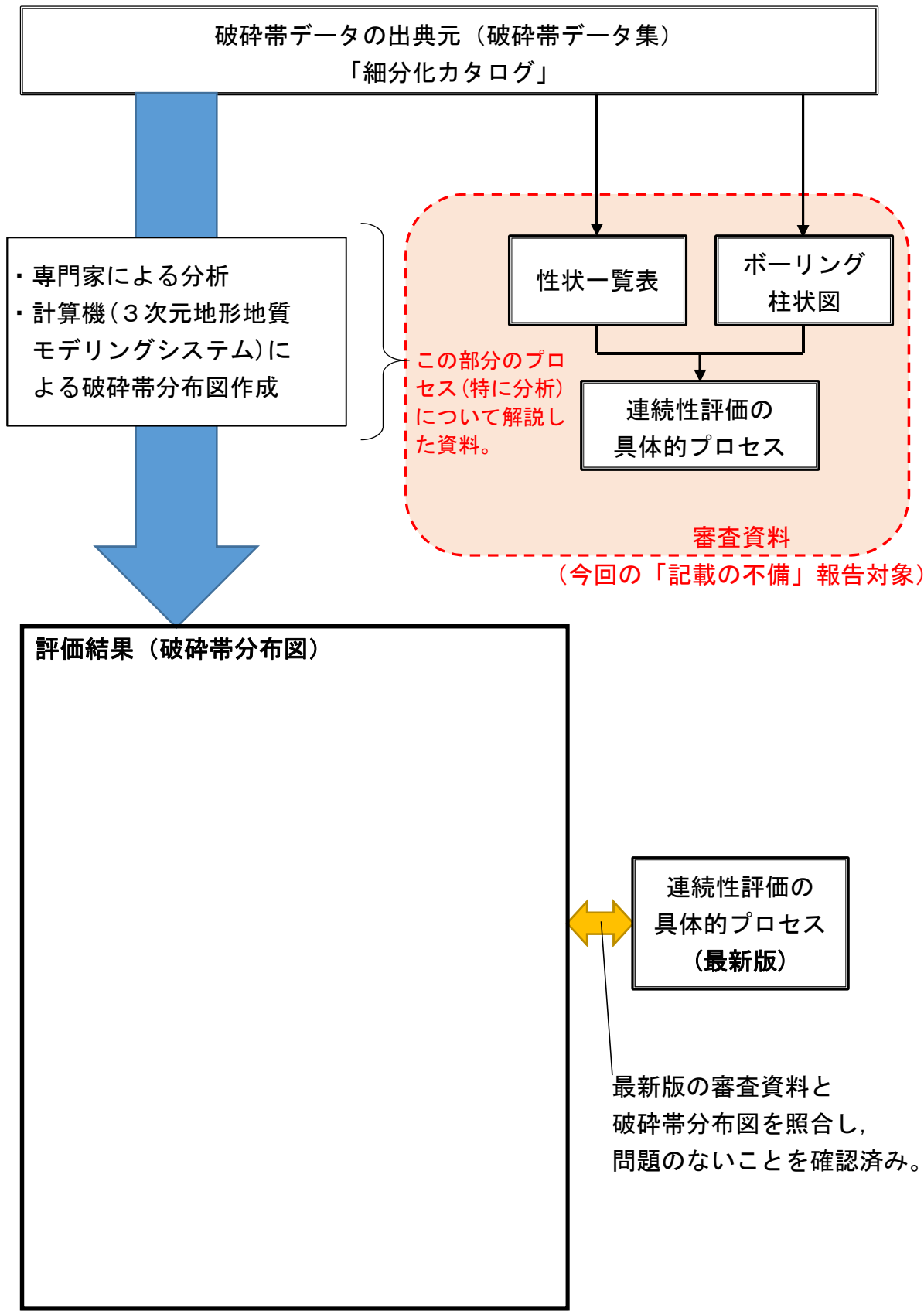
- (1) これまでの審査資料を全て「最新版ファイル」に更新する。また、審査資料の評価結果に与える影響を確認する。【実施済み、評価結果に影響を与えるものではないと考えている】
 - (2) 審査資料の全ての「最新版ファイル」の保存場所を一元化（専用フォルダを作成して管理者を定める）し、当社と委託先の作業員全員で共有することをルール化する。⇒原因(1)に対する対策【実施済み】
 - (3) 審査資料として提出する「印刷した紙面」についても、データチェックを行い、「最新版ファイル」であることを確認する。⇒原因(2)に対する対策【実施済み】
- なお、東海第二発電所の工事計画認可補正申請（平成 30 年 10 月）における記載不備の対応においても同様の原因が抽出されており、現在は、「印刷した紙面」が「最新版ファイル」であることの確認がルール化されている。

6. 添付資料

- (1) 評価結果（破砕帯分布図等）と今回の報告対象の関係
- (2) 「記載の不備」発生イメージとデータ再確認箇所
- (3) 敦賀発電所 2 号炉「敷地の地形、地質・地質構造について」に関する審査資料の記載の不備について（正誤比較）【抜粋版】

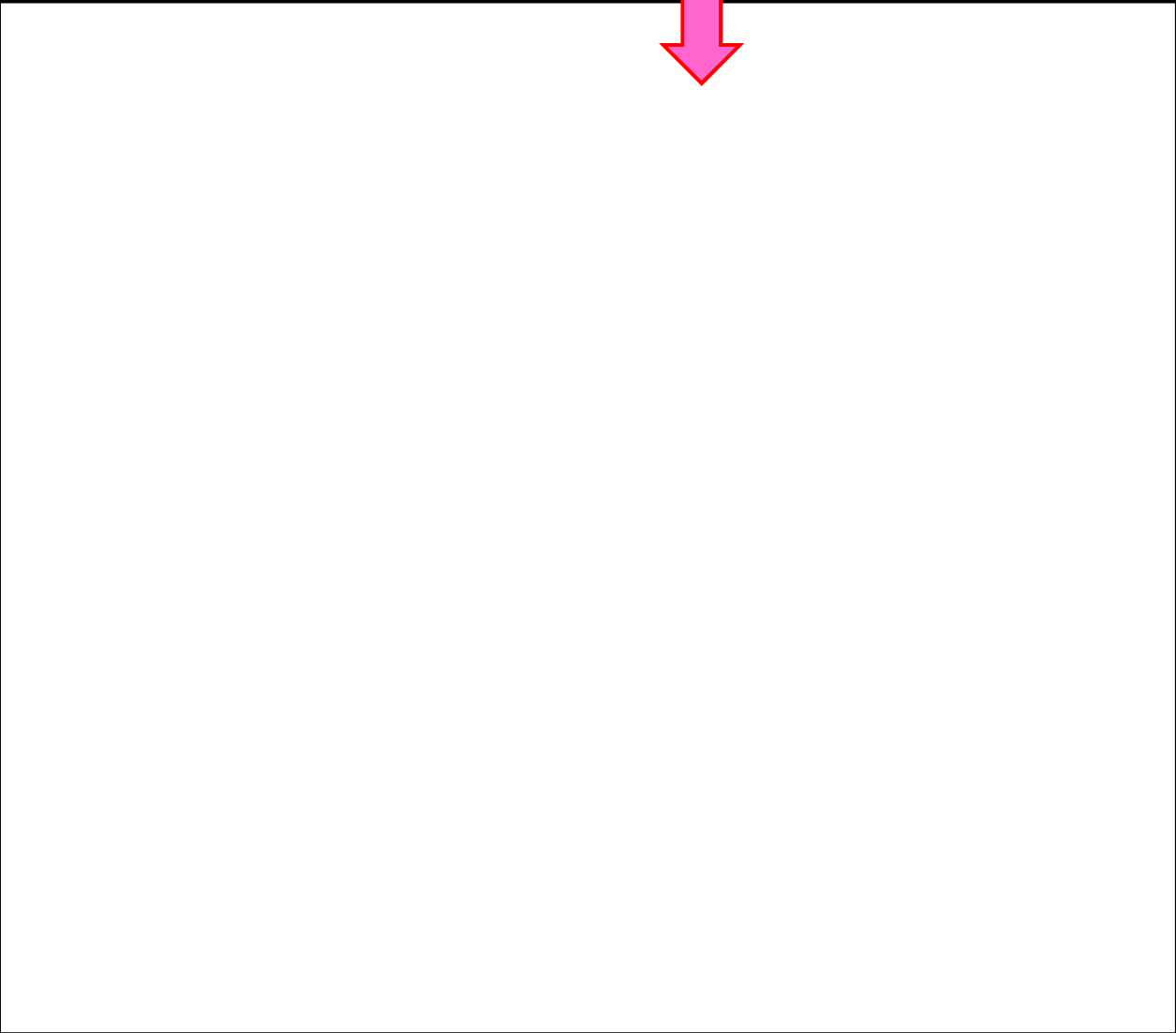
以 上

評価結果（破砕帯分布図）と今回の報告対象の関係



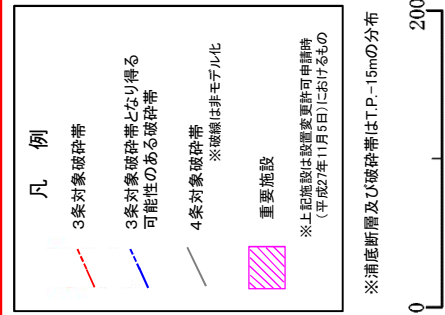
枠囲みの内容は営業秘密又は防護上の観点から公開できません。

破砕帯の連続性評価について
③ 連続性評価結果



- ・ 重要施設の近傍に位置する破砕帯や連続性の乏しい破砕部が3条対象破砕帯となる可能性を最大限考慮するため、これまでの連続性評価の基準を一部変更した。加えて、破砕帯の選定に関する指摘についても、破砕帯の新旧関係と連続性評価との間に矛盾を生じさせないとの観点からも、これまでの連続性評価の基準を一部変更した。
- ・ 上記の変更及びそれを踏まえた検討の結果、これまで4条対象破砕帯としていた破砕帯等の一部については、3条対象破砕帯となり得る可能性がある。
- ・ 原子炉補機冷却海水取水路や防潮堤の南側付近等においてデータ拡充や3条対象破砕帯となり得る破砕帯が3条対象破砕帯であるかを明確にするため、ボーリング調査等による（既存のコアの利用も含めた）データ拡充を図っていく（追加の調査や検討については具体的な計画がまとまり次第説明する）。

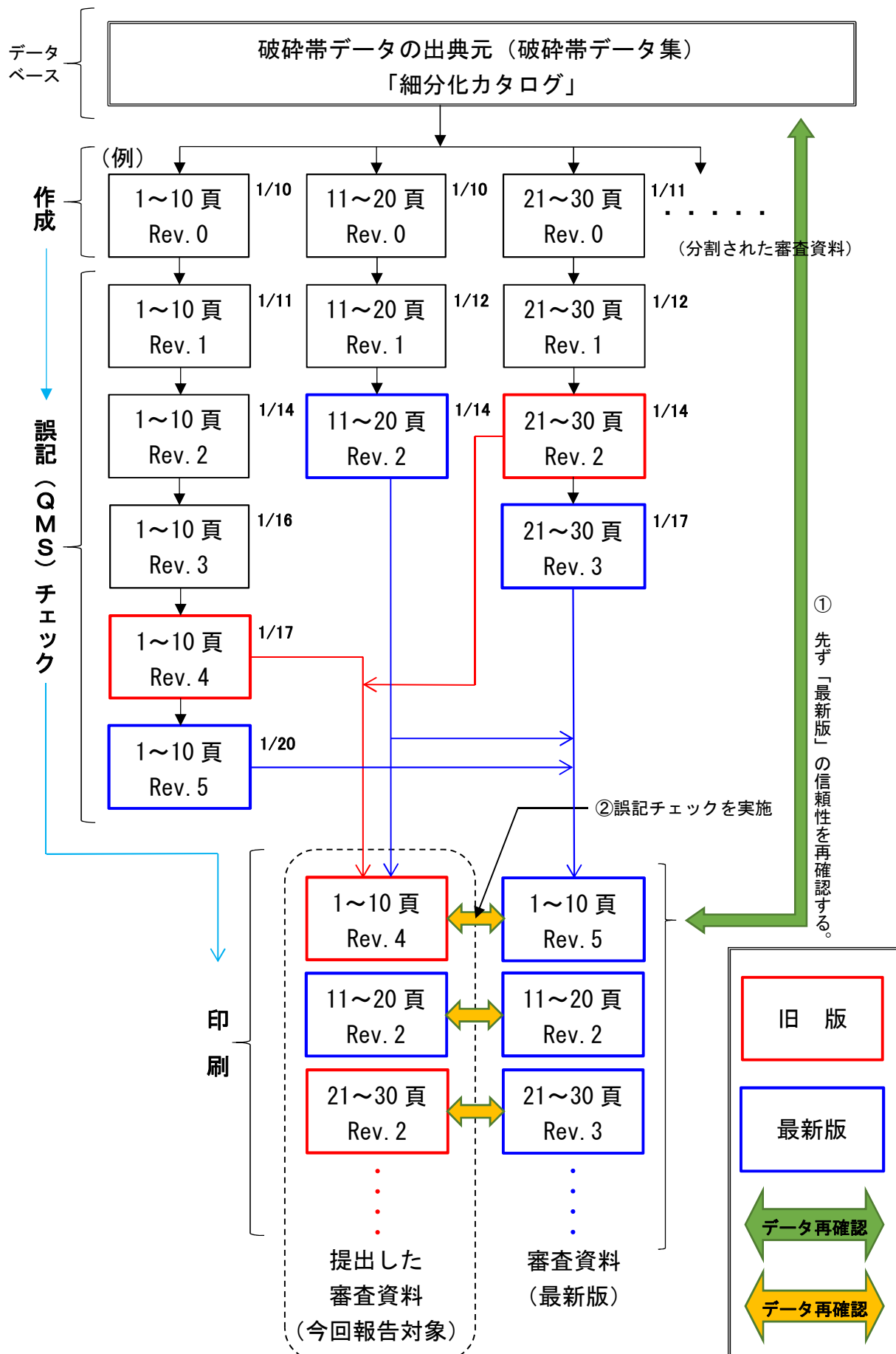
記載の修正（最新ファイルへの差替）に伴う破砕帯分布図の変更は無い。



枠囲みの内容は営業秘密又は防護上の観点から公開できません。

3条対象破砕帯及び3条対象破砕帯となり得る可能性のある破砕帯分布図

「記載の不備」発生イメージとデータ再確認箇所



余 白

机上配付資料1

本資料のうち、枠囲みの内容は営業秘密
又は防護上の観点から公開できません。

敦賀発電所2号炉 「敷地の地形、地質・地質構造について」 に関する審査資料の記載の不備について (正誤比較)

【机上配布資料 1 抜粋版】
1頁, 2頁, 3頁 (表紙～目次)
132頁, 133頁 (連続性評価の具体的プロセス例)
452頁, 453頁 (性状一覧表例)
470頁, 471頁 (柱状図例)

令和元年8月23日
日本原子力発電株式会社

添付資料 3



白
余

敦賀発電所2号炉「敷地の地形、地質・地質構造について」
に関する審査資料の記載の不備について（正誤比較）
目次

資料名		該当ページ(資料の右下)	正誤比較ページ (資料の右上)
平成29年12月22日 第536回 審査会合資料	本編資料	106,107,179	4～9
	参考資料(1/3)	参考1-201,207～210,223～226,280,292,297,298,302,308～320,333,334, 355,356,384,385,395,396,402,437,438,442	10～87
	本編資料	27,31,33,47,78,82,103	88～101
平成29年11月30日 第567回 審査会合資料	参考資料1	2.原子炉建屋及びその周辺の重要施設	102～141
		4.原子炉補機冷却海水取水路、貯留堰等	142～287
		5.防潮堤(防潮扉含む)及びその周辺の重要施設	288～419
		目次	420,421
		1.浦底断層	422,423
	参考資料2	2.D-1破砕帯	424～427
		3.K断層	428,429
		5.D-14	430,431
		6.D-5破砕帯	432,433
		7.H-3a破砕帯	434,435
		9.D-17～D-28破砕帯	436,437
		10.D-29～D-47破砕帯	438,439
		12.f-①-1-3～f-④-13破砕帯	440,441
		14.H-1～f-b-4-6	442～445
		15.非モザル化破砕帯	446～469
	参考資料3	D-1(H27-B-3)	470,471
		D-1(H24-B14-2)	472,473
		D-1(H24-D1-1)	474～477
		D-1(H27-B-1)	478～485
		D-1(H27-B-2)	486～491
		D-5(H24-B11-1)	492,493
		D-3(H27-B-1)	494,495
		D-20(H20-④-2)	496,497
		D-36(H24-B8-29)	498,499

修正箇所

連続性評価の具体的プロセス

(原子炉建屋等，起点破砕部：2号炉底盤南端，D－3破砕帯)〔B-B’断面〕

起点	対比する ボーリング孔	連続性検 討範囲	断面図上 の番号	破砕帯範囲		走向	比較対象との 走向の差 (°)	傾斜	比較対象との 傾斜の差 (°)	性状	連続性 検討結果	破砕帯名	性状一覧表	連続性検討結果に関する備考		
				上端深度 (m)	下端深度 (m)											
2号炉底盤南端	-	-	-	(TP-15m)		N10W	-	80W	-	-	-	D-3				
	H19-No.11		①	76.60	77.00	-	-	(74)	6	有	無	-	D-2	参考2-86		
			①	36.35	36.58	N3E	13	53W	27	有	無	-	D-2	参考2-86		
			②	58.41	58.43	N4W	6	70W	10	有	有	75L	-	D-3	参考2-87	
			③	75.04	75.08	N12E	22	89W	9	無	-	25L	x	F-13-3	参考2-130 ※4	
			④	82.48	82.50	N25E	35	61W	19	無	-	56L	-	F-12-3	参考2-129	
			⑤	90.45	90.66	N8E	18	71W	9	無	-	30R	x	F-12-4	参考2-129 ※4	
			⑥	104.12	104.22	N4W	6	83W	3	有	無	50L N.R.L	x	D-4	参考2-89 ※4	
			⑦	119.64	119.72	N37E	47	83W	3	有	無	42L	-	F-12-6	参考2-129	
			⑧	152.06	152.09	N40E	50	71W	9	有	無	3R (不明瞭)	-	F-12-7	参考2-129	
H19-No.12	範囲内	⑨	169.38	169.46	N21E	31	84W	4	有	無	85R	-	F-12-8	参考2-130		
		⑩	172.20	172.45	-	-	-	-	有	有	-	x	D-5	参考2-70 ※4		
		⑪	222.85	222.88	N14E	24	85W	5	有	無	24L	x	F-12-10	参考2-130 ※4		
		⑫	224.67	225.08	-	-	-	-	有	有	-	x	D-6	参考2-57 ※3		
		⑬	228.53	228.79	-	-	-	-	有	無	-	x	D-19	参考2-99 ※3		
		⑭	230.00	230.07	-	-	-	-	有	無	-	x	F-①-1-3	参考2-138 ※3		
		⑮	247.57	247.64	-	-	-	-	有	無	-	x	D-7	参考2-90 ※4		
		①	31.28	31.44	N33W	23	75W	5	無	-	-	x	D-43	参考2-118 ※3		
		②	34.37	34.70	N89W	79	58S	22	無	-	-	-	非モダル化	参考2-188		
		③	14.41	14.42	N53W	43	60S	20	無	-	66R	-	D-43	参考2-118		
H20-①-5		②	14.78	15.13	N81W	71	65S	14	無	-	-	非モダル化	参考2-188			
		①	28.46	28.53	-	-	(63)	17	有	無	-	x	非モダル化	参考2-184 ※4		
H20-①-6		②	39.09	39.14	-	-	(73)	7	有	無	-	x	非モダル化	参考2-184 ※4		
		③	73.62	73.63	-	-	(68)	12	有	無	-	x	非モダル化	参考2-185 ※4		

注）起点の走向は，2号炉建屋における分布のトレンドを示す。

注）起点の傾斜は，数値発電所原子炉設置許可申請書（2号炉）に記載の試験坑C坑での値を示す。

（ ）の傾斜角：ホーリングコア観察結果による値

- ：起点の破砕部の走向・傾斜から±25°の範囲内のもの
- ：起点の破砕部の走向・傾斜から±25°の範囲内に分布し，かつ，両者の走向・傾斜の差が±25°以内のもの
- ：起点の破砕部の走向・傾斜から±25°の範囲内に分布し，かつ，両者の走向・傾斜の差が±25°以内の可能性のあるもの
- ：起点の破砕部の走向・傾斜から±25°の範囲内に分布し，かつ，両者の走向・傾斜の差が±25°以内で，かつ，性状のうち断層カワジ・断層角縁の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの
- ：起点の破砕部の走向・傾斜から±25°の範囲内に分布し，かつ，両者の走向・傾斜の差が±25°以内で，かつ，性状のうち断層カワジ・断層角縁の有無及びせん断構造・変形構造の有無が類似するもの
- ：起点の破砕部の走向・傾斜から±25°の範囲内に分布し，かつ，両者の走向・傾斜の差が±25°以内で，かつ，性状（断層カワジ・断層角縁の有無，せん断構造・変形構造の有無，せん断構造・変形構造の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの）が類似するもの
- ：起点の破砕部の走向・傾斜から±25°の範囲内に分布し，かつ，両者の走向・傾斜の差が±25°以内で，かつ，性状のうち断層カワジ・断層角縁の有無，せん断構造・変形構造の有無が類似するもの

連続性評価の具体的プロセス
(原子炉建屋等、起点破碎部：2号炉底盤南端，D－3破碎帯)〔B-B’断面〕

起点	対比する ボーリング孔	連続性検討 範囲	断面図上 の番号	破碎帯範囲		走向	比較対象との 走向の差 (°)	傾斜	比較対象との 傾斜の差 (°)	性状			連続性 検討結果	性状一覧表	連続性検討結果に関する備考
				上端深度 (m)	下端深度 (m)					断面カワジ・ 断層角縁 の有無	明瞭な せん断構造・ 変形構造 の有無	条線方向 条線方向	変位セリ N：正断層 RL：右横ずれ R：逆断層 LL：左横ずれ		
2号炉底盤南端	H19-No.11		-	-	(TP±15m)	N10W	-	80W	-	-	-	-	-	D-3	
			①	76.60	77.00	-	(74)	6	-	有	無	-	-	D-2	参考2-86
			①	36.35	36.58	-	-	-	-	有	無	57L	-	D-2	参考2-86
			②	58.41	58.43	N4W	6	70W	10	有	有	75L	-	D-3	参考2-87
			③	75.04	75.08	N12E	22	89W	9	有	有	25L	-	F-13-3	参考2-130 ※4
			④	82.48	82.50	N25E	35	61W	19	有	有	56L	-	F-12-3	参考2-129
			⑤	90.45	90.66	N8E	18	71W	9	有	有	30R	-	F-12-4	参考2-129 ※4
			⑥	104.12	104.22	N4W	6	83W	3	有	有	50L	N,RL	D-4	参考2-89 ※4
			⑦	119.64	119.72	N37E	47	83W	3	有	有	42L	-	F-12-6	参考2-129
			⑧	152.06	152.09	N40E	50	71W	9	有	有	3R (不明瞭)	-	F-12-7	参考2-129
	H19-No.12	範囲内	⑨	169.38	169.46	N21E	31	84W	4	有	有	85R	-	F-12-8	参考2-130
			⑩	172.20	172.45	-	-	-	-	有	有	-	-	D-5	参考2-70 ※4
			⑪	222.85	222.88	N14E	24	85W	5	有	有	24L	-	F-12-10	参考2-130 ※4
			⑫	224.67	225.08	-	-	-	-	有	有	-	-	D-6	参考2-57 ※3
			⑬	228.53	228.79	-	-	-	-	有	有	-	-	D-19	参考2-99 ※3
			⑭	230.00	230.07	-	-	-	-	有	有	-	-	F-D-1-3	参考2-138 ※3
			⑮	247.57	247.64	-	-	-	-	有	有	-	-	D-7	参考2-90 ※4
			①	31.28	31.44	N33W	23	75W	5	無	-	75L	-	D-43	参考2-118 ※3
			②	34.37	34.70	N89W	79	58S	22	無	-	-	-	非モデリ化	参考2-188
			①	14.41	14.42	N53W	43	60S	20	無	-	66R	-	D-43	参考2-118
H20-①-5	H20-①-6		②	14.78	15.13	N81W	71	65S	14	無	-	-	-	非モデリ化	参考2-188
			①	28.46	28.53	-	-	(63)	17	有	有	-	-	非モデリ化	参考2-184 ※4
H19-No.10			②	39.09	39.14	-	-	(73)	7	有	有	-	-	非モデリ化	参考2-184 ※4
			③	73.62	73.63	-	-	(68)	12	有	有	-	-	非モデリ化	参考2-185 ※4

注) 起点の走向は、2号炉底盤における分布のトレンドを示す。

注) 起点の傾斜は、弊発掘所原子炉設置許可申請書(2号炉)に記載の試験データの結果を示す。

()の傾斜角：ボーリングコア試験結果による値

- ：起点の破碎部の走向・傾斜から±25°の範囲内のもの
- ：起点の破碎部の走向・傾斜から±25°の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±25°以内のもの
- ：起点の破碎部の走向・傾斜から±25°の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±25°以内の可能性があるもの
- ：起点の破碎部の走向・傾斜から±25°の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±25°以内で、かつ、性状のうち断層カワジ・断層角縁の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの
- ：起点の破碎部の走向・傾斜から±25°の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±25°以内で、かつ、性状のうち断層カワジ・断層角縁の有無及びせん断構造・変形構造の有無が類似するもの
- ：起点の破碎部の走向・傾斜から±25°の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±25°以内で、かつ、性状(断層カワジ・断層角縁の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線方向もしくは変位セリ)が類似するもの
- ：起点の破碎部の走向・傾斜から±25°の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±25°以内で、かつ、性状のうち断層カワジ・断層角縁の有無、せん断構造・変形構造の有無が類似する可能性があるもの

性状一覧表(4/12)

第657回審査会合
机上配付資料2 修正前

断面図上の 番号	確認 箇所	破砕帯範囲		走向	傾斜 (°)	破砕幅 (cm)	断面角の せん断構造 (°)	最新活動面		条線 方向	変位センス		写真
		上部深度 (m)	下部深度 (m)					平滑さ	突起構造		鉛直	水平	
④	H19-No.18	155.72	155.75	N38E	76W	1.5	0.3	-	無	-	-	-	156
⑤	H19-No.18	164.15	164.25	N9E	78W	6.7	-	-	-	-	-	-	165
⑥	H19-No.18	169.62	169.63	N20E	89W	1.5	1.5	-	無	-	-	-	170
③	H19-No.19	22.44	22.46	N34W	72E	2.0	2.0	-	無	-	-	-	23
⑦	H19-No.19	168.28	168.32	-	-	3.0	0.3	-	無	-	-	-	169
①	H20-U-1	2.66	2.95	-	-	10.0	-	-	-	-	-	-	3
①	H20-U-2	11.73	11.91	-	-	17.0	7.0	-	無	-	-	-	12
①	H20-U-3	4.96	5.00	N83E	40N	2.5	0.2	-	無	-	-	-	5
②	H20-U-3	5.53	5.81	N11E	55W	18.0	-	-	-	-	-	-	6

【破砕幅】
粘土状破砕部、砂状破砕部、角礫状破砕部、
固結した粘土状破砕部、固結した砂状破砕部、固結した角礫状破砕部
の合計の幅とし、破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平：滑；最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

凡 例

最新活動面

破砕幅

断面角のせん断構造

粘土の存在物が認められる箇所

*1: 露頭

*2: 試験坑

性状一覧表(4/12)

第657回審査会合
机上配付資料2 修正後

断面図上の 番号	確認 箇所	破砕帯範囲		走向	傾斜 (°)	破砕幅 (cm)	断層角の 幅 (cm)	最新活動面		条線 方向	変位センス		写真
		上部深度 (m)	下部深度 (m)					明確な せん断滑動 変形構造	平滑さ		鉛直	水平	
④	H19-No.18 (傾斜60°)	155.72	155.75	N38E	76W	1.5	0.3	無	-	-	-	-	156
⑤	H19-No.18 (傾斜60°)	104.15	104.29	N9E	/8W	6.7	-	-	-	-	-	-	165
⑥	H19-No.18 (傾斜60°)	169.62	169.63	N20E	89W	1.5	1.5	無	-	-	-	-	170
③	H19-No.18 (傾斜70°)	22.44	22.46	N34W	73E	2.0	2.0	無	-	-	-	-	22
⑦	H19-No.19 (傾斜70°)	168.28	168.32	-	-	3.0	0.3	無	-	-	-	-	169
①	H20-11-1 (鉛直)	2.66	2.95	-	-	10.0	-	-	-	-	-	-	3
①	H20-11-2 (傾斜54°)	11.73	11.91	-	-	17.0	7.0	無	-	-	-	-	12
①	H20-11-3 (鉛直)	4.96	5.00	N83E	40N	2.5	0.2	無	-	-	-	-	5
②	H20-11-3 (鉛直)	5.53	5.81	N11E	55W	18.0	-	-	-	-	-	-	6

【破砕幅】
粘土状破砕部、砂状破砕部、角礫状破砕部、
固結した粘土状破砕部、固結した砂状破砕部、固結した角礫状破砕部
の合計の幅とし、破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平 滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

凡 例

→ : 最新活動面 ← → : 破砕幅 断層がウジ 粘土の存在物が認められる箇所

*1: 露頭
*2: 試験坑

柱状図(30.00m～60.00m)

 第657回審査会合
机上配付資料3修正前

標 尺 m	標 高 m	深 度 m	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	岩 級 区 分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記 事
40				花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	26	36	●	30.56～32.21m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。
						CH'	100	17	40	●	
						CM'	100	10	10	●	
						CL'	100	5	0	●	
						CM'	100	9	0	●	34.20～35.94m ・硬質だが、密着度の低い割れ目が多い。
						CM'	100	8	0	●	
					にぶい褐	CH'	100	19	43	●	35.94～37.30m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。
						CM'	100	16	16	●	
						CL'	100	10	10	●	37.69～37.81m ・割れ目沿いに砂状を呈する。 ・白色の粘土脈を挟む。
						CM'	100	10	10	●	
						CL'	100	11	11	●	
						CM'	100	9	0	●	40.79～41.83m ・硬質であるが、割れ目が多い。
					明褐灰	CL'	100	8	0	●	
						CL'	100	13	33	●	●42.85～42.91m(H-2破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・明褐灰色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はNS71° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は66°である。
						CM'	100	11	11	●	
						CL'	100	12	12	●	
						CM'	100	11	21	●	
						CL'	100	11	11	●	46.14～48.61m ・硬質であるが、割れ目が多い。 ・上部は長石の多くが白濁化する。 ・一部で割れ目沿いに、砂状～細片状を呈する。
						CM'	100	6	0	●	
						CL'	100	7	0	●	
						CL'	100	4	0	●	
						CL'	100	4	0	●	
50				花崗斑岩	にぶい橙	CL'	100	6	0	●	53.10～55.82m ・割れ目が多く、一部割れ目沿いに砂状を呈し、白色粘土を挟む。
						CL'	100	6	0	●	
						CL'	100	5	0	●	
						CL'	100	3	0	●	
						CL'	100	2	0	●	
						CL'	100	2	0	●	●56.69～56.72m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・主に淡黄色の固結礫状部からなる。 ・黄灰色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm ・走向・傾斜はN2° W36° Wである。 ・上端境界の傾斜は30°、下端境界の傾斜は31°である。
					浅黄	D'	100	3	0	●	
					灰黄褐	CL'	100	2	0	●	
					灰褐	D'	100	5	0	●	
					橙	CL'	100	5	0	●	●58.89～58.98m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 ・主ににぶい黄橙色の固結礫状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm ・走向・傾斜はN11° W54° Wである。 ・上端境界の傾斜は20°、下端境界の傾斜は25°である。
				花崗斑岩	灰褐	CL'	100	5	0	●	●59.69～59.75m ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主ににぶい橙色の固結礫状部からなる。 ・黄褐色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm ・走向・傾斜はN37° E48° Wである。 ・上端境界の傾斜は52°、下端境界の傾斜は37°である。
						CL'					
						CL'					
						CL'					

H27-B-3

柱状図(30.00m~60.00m)

第657回審査会合
机上配付資料3修正後

標 尺 m	標 高 m	深 度 m	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	岩 級 区 分	コ ア 採 取 率 (%)	最 大 コ ア 長 (cm)	R Q D (%)	コ ア 採 取 率 (%) 最大コ ア長 (cm)	記 事
					明褐色	CL'	100	26	36		30.56~32.21m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。
					灰褐色	CH'	100	17	40		
					灰褐色	CM'	100	10	10		
					灰褐色	CL'	100	5	0		
					灰褐色	CM'	100	9	0		34.20~35.94m ・硬質だが、密着度の低い割れ目が多い。
					灰褐色	CM'	100	8	0		
					にぶい褐色	CH'	100	19	43		35.94~37.30m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。
					にぶい褐色	CM'	100	16	16		
					にぶい褐色	CL'	100	10	10		37.69~37.81m ・割れ目沿いに砂状を呈する。 ・白色の粘土脈を挟む。
					にぶい褐色	CM'	100	10	10		
					にぶい褐色	CL'	100	11	11		
					明褐色	CM'	100	9	0		40.79~41.83m ・硬質であるが、割れ目が多い。
					明褐色	CL'	100	8	0		
					明褐色	CM'	100	13	33		●42.85~42.91m(H-2破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・明褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はNS71° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟む。 ・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は66°である。
					明褐色	CL'	100	12	12		
					明褐色	CM'	100	11	21		
					明褐色	CL'	100	11	11		46.14~48.61m ・硬質であるが、割れ目が多い。 ・上部は長石の多くが白濁化する。 ・一部で割れ目沿いに、砂状~細片状を呈する。
					明褐色	CM'	100	6	0		
					明褐色	CL'	100	7	0		
					明褐色	CL'	100	4	0		
					明褐色	CL'	100	4	0		
					明褐色	CL'	100	6	0		53.10~55.82m ・割れ目が多く、一部割れ目沿いに砂状を呈し、白色粘土を挟む。
					明褐色	CL'	100	6	0		
					明褐色	CL'	100	5	0		
					明褐色	CL'	100	3	0		
					明褐色	CL'	100	2	0		
					明褐色	D'	100	3	0		●56.69~56.72m ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に淡黄色の固結礫状部からなる。 ・黄灰色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm ・走向・傾斜はN2° W36° Wである。 ・上端境界の傾斜は30°、下端境界の傾斜は31°である。
					明褐色	CL'	100	2	0		
					明褐色	D'	100	5	0		●58.89~58.98m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 ・主ににぶい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm ・走向・傾斜はN11° W54° Wである。 ・上端境界の傾斜は20°、下端境界の傾斜は25°である。
					明褐色	CL'	100	5	0		●59.69~59.75m ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主ににぶい褐色の固結礫状部からなる。 ・黄褐色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm ・走向・傾斜はN37° E48° Wである。 ・上端境界の傾斜は52°、下端境界の傾斜は37°である。